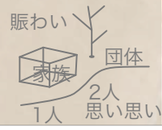
さくら庭 Visitor center

人と人　自然　風景。　その場その場の地形や周囲との関係性を考え、プラスを生み出すために積極的に関与するという事。
また多義的なものは多義的なものにして、あえて何もしない事を考える。
誰でもが気軽に思い思いの過ごし方ができる居場所づくり、森を回遊する愉しさが生じるような計画です。

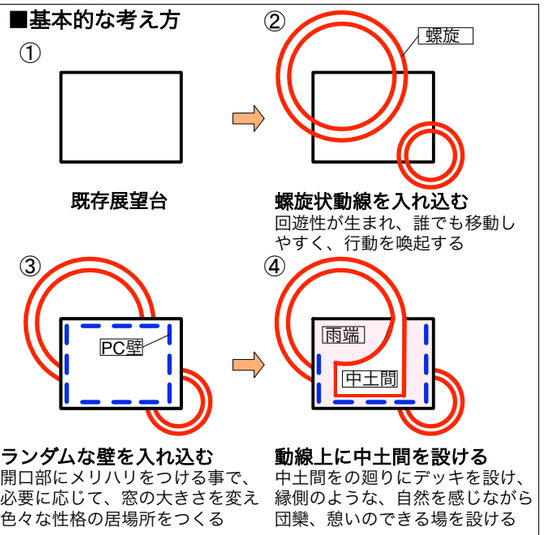
■動線計画、バリアフリー
折り返しではく、回遊式になる事。
既存の展望台と、広場にリング状の動線を「差込み」回遊性が生まれ、来園者の行動を喚起し、新しい風景、居場所を発見します。
ゆるやかなスロープで、ベビーカー、車椅子の方でも自由に移動できます。

■曖昧な境界～中間領域に居場所をつくる～
縁側、雨端のような外とのつながり。
自然豊かで、景観豊な当敷地で、その豊かな外部環境を存分に感じとれ憩えるように、外部と内部の境界を曖昧にし、雨端でお茶を飲んでいるような、親しみのある憩いの居場所を計画します。

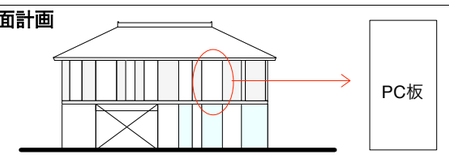
■居場所づくり
1人、２人、家族、団体、、それぞれに応じた居心地のよさを感じさせる場所。
皆が共有できる一つの場所であると同時に、様々な活動が共存し得る多様な場所づくり。色々な性格の居場所を連ね、様々な関係性がうまれる場所。



■基本的な考え方

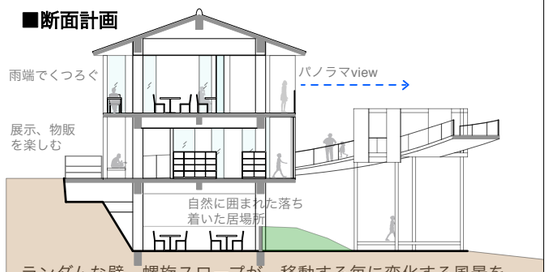


■立面計画

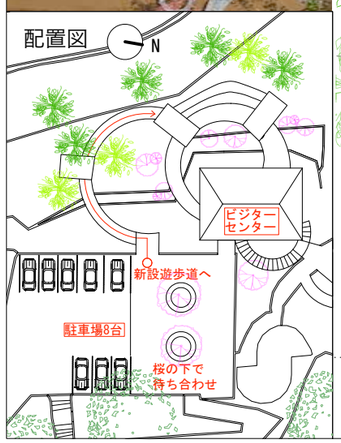


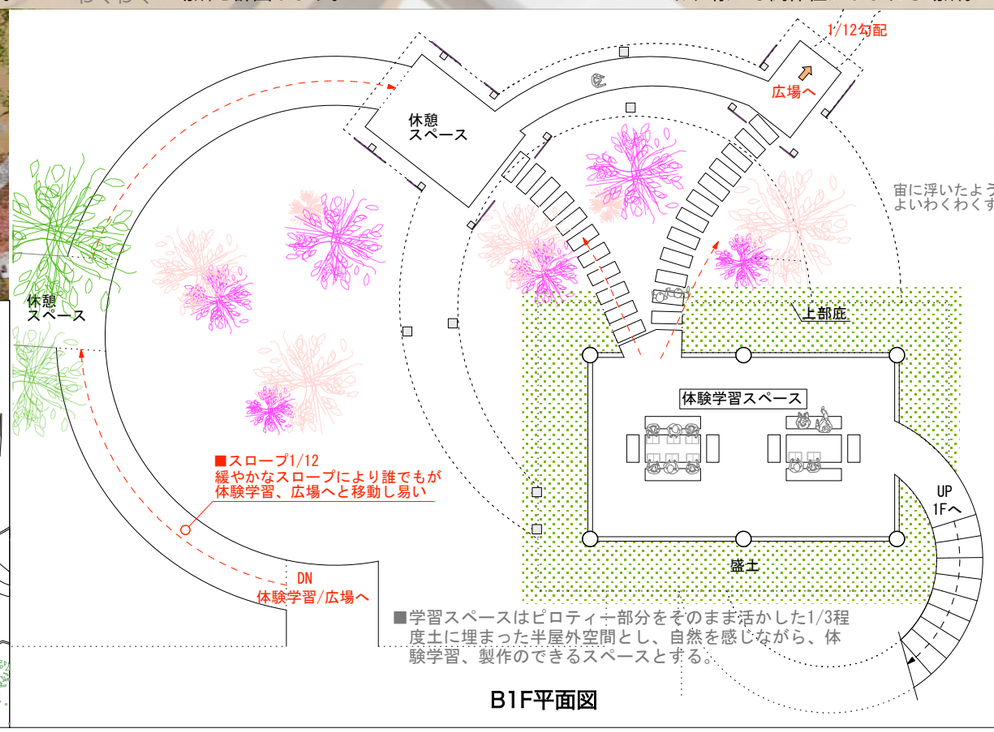
繊維補強コンクリートを炭素繊維ケーブルを用い、プレテンション方式で緊張したものを使用します。重量が軽く、サビる事もなく長寿命化を実現します。

■断面計画



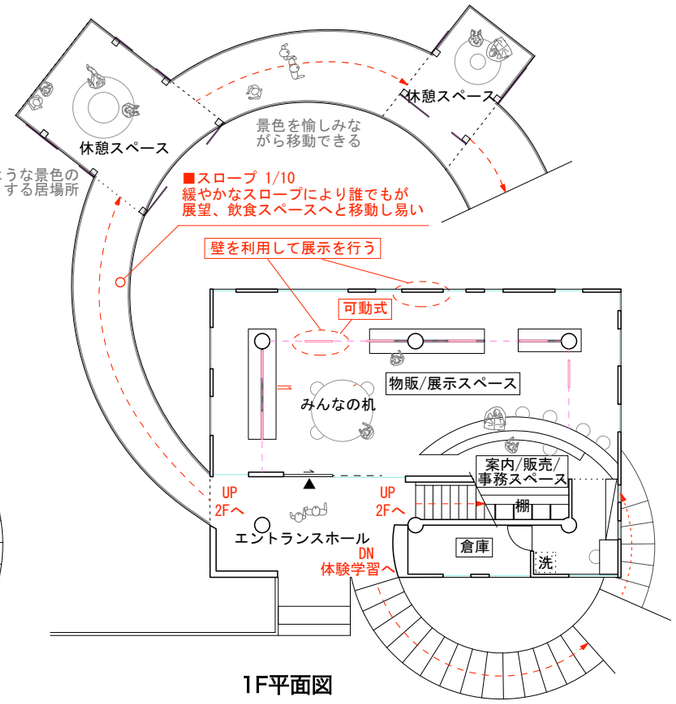
ランダムな壁、螺旋スロープが、移動する毎に変化する風景を楽しめます。層毎にその場に合った計画を行います。



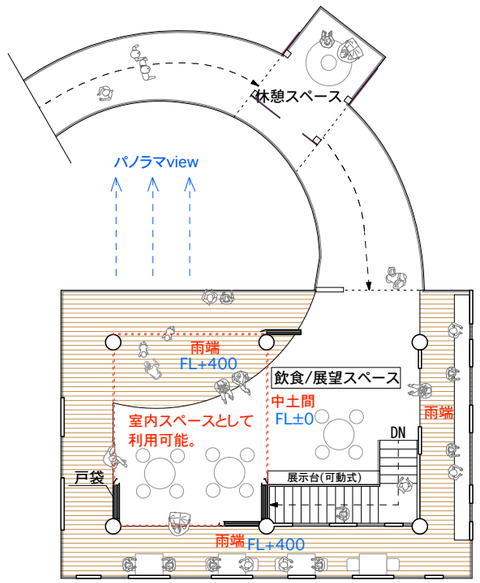


■学習スペースはピロティー部分をそのまま活かした1/3程度土に埋まった半屋外空間とし、自然を感じながら、体験学習、製作のできるスペースとする。

B1F平面図

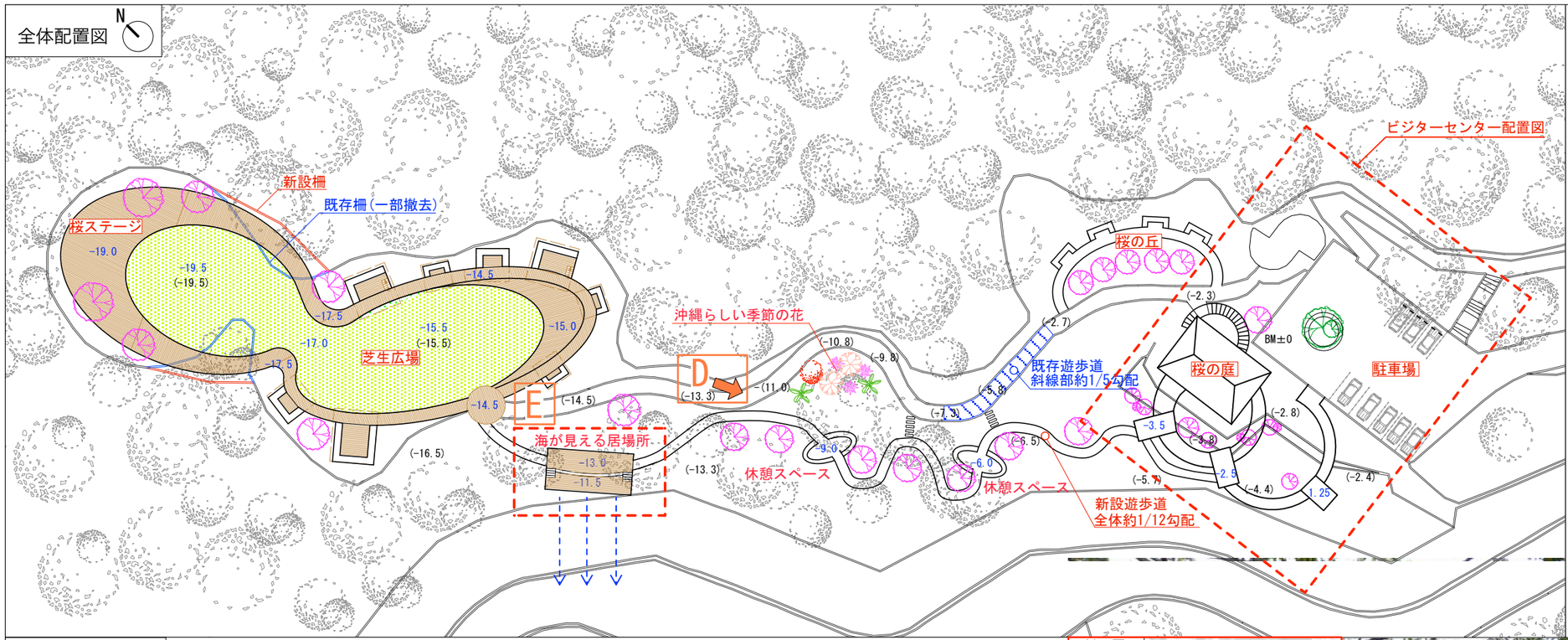


1F平面図

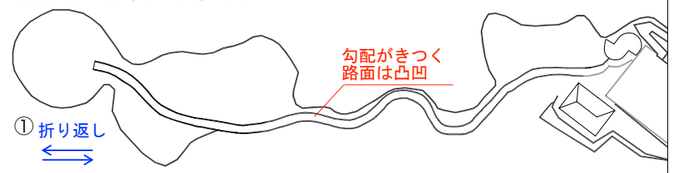


■自由にアプローチしやすい「中土間」。そこを囲むように、デッキの「雨端」を設け、民家の雨端でお茶を飲みながら団欒するように利用して頂けます。
物販スペースにて広場でも利用に便利なベンチシートを購入可能にします。

2F平面図

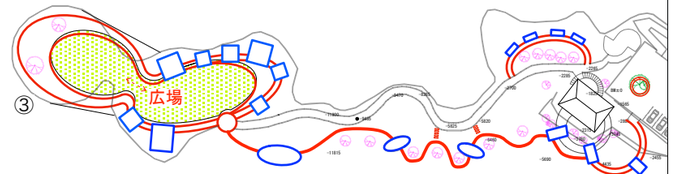


■広場の基本的な考え方

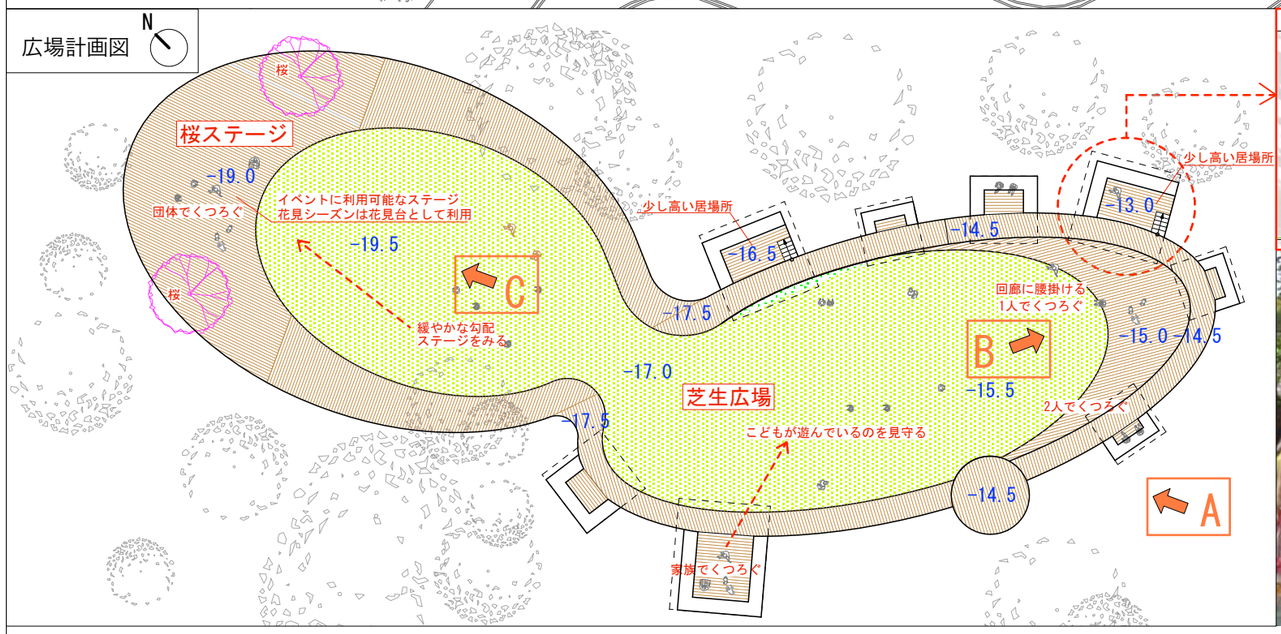


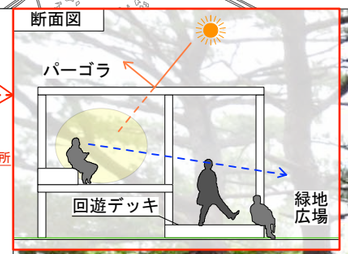
既存広場の遊歩道は勾配がきつく、路面は凹凸が多いため、ベビーカーなど子連れの家族や、お年寄りが安心して広場へ到達する事ができない。
また、通りが1つの為、回遊性がなく、単調な移動となる。

広場までの遊歩道を新たに1/12勾配程度で設け、コーナー部分には新たに桜を植ます。その事で誰でもが安心して、風景を愉しみながら広場までを散策する事ができます。また広場にはリング状の遊歩道を設け、回遊性と広場を取り囲む事により、安心して子供が遊べる広場とします。



遊歩道には、居場所を点在させ、思い思いの場所で憩い、愉しむ事ができます。
「桜ステージ」は桜の季節には花見台として利用でき、インベント時にはステージとして利用できます。





A地点からみた風景
遊歩道、広場は誰でもが、歩いて愉しいゆるやかな回遊式

B地点からみた風景
広場を囲みながら、思い思いの場所でくつろげる

C地点からみた風景
花見、音楽イベント、様々な利用が可能な広場

D地点からみた風景
遊歩道にも休憩スペースを設け、ゆっくり回遊できる

E地点　「海が見える居場所」
木々に囲まれた広場の一部分だけ、海がみえる開けた居場所を設ける